



小・中連携による5年間を見通した家庭科の授業計画
：中学校の被服領域を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部 公開日: 2020-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福良, 維素子, 川崎, 夕子, 前村, 育実, 岩見, ミカ, 岡村, 好美, 篠原, 久枝, 堀江, さおり, 伊波, 富久美, Fukura, Isoko, Kawasaki, Yuko, Maemura, Ikumi, Iwami, Mika, Horie, Saori メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5458

小・中連携による 5 年間を見通した家庭科の授業計画

-中学校の被服領域を中心に-

福良維素子* 川崎 夕子** 前村育実 ** 岩見 ミカ**
 岡村 好美*** 篠原 久枝*** 堀江さおり*** 伊波富久美***

Plan of Home Economics Education for the Five Years Continued from Elementary through
 Junior High School

Isoko FUKURA* Yuko Kawasaki ** Ikumi MAEMURA**
 Mika IWAMI** Yoshimi OKAMURA*** Hisae SHINOHARA***Saori
 HORIE*** Fukumi IHA****

I. 研究課題

中教審初等中等教育分科会の「小中連携，一貫教育に関する主な意見等の整理」¹⁾ (2012) において、多様な形態で小・中校間の連携が進められている実態が示され、小中一貫教育特別部会で、その制度化の在り方について検討されているところである。宮崎大学では、平成 23 年度より 3 年間にわたって、文部科学省の特別経費による小中一貫研究プロジェクトが実施され、教育文化学部と学部附属学校との共同研究²⁾ もその一環として進められてきた。

家庭科部会においても、平成 23 年度には小・中の「食物」に関する内容を系統性の視点から整理するとともに、附属中学校の教員が附属小学校で授業を行う、“乗り入れ”の形で交流授業を実施した。平成 24 年度は、さらに緊密な連携を図るため、小・中学校の児童・生徒が同じ教室で共に学ぶ合同授業を調理実習において設定した。合同授業における児童・生徒の協働的な学習の効果について、児童・生徒の技能向上の可能性や自他の調理技能に対する意識の変化を観点にしながら検討することによって、家庭科教育における小・中学校が連携した授業の可能性及び課題について明らかにすることを試みた³⁾。

それらの検討をふまえて、さらに本研究では、被服領域を中心に小学生および中学生の衣生活に関する基礎的・基本的な技法の定着度を把握した上で、小・中の 5 年間を見通した年間計画の作成し、被服領域の授業実践について小・中学校および大学の教員がともに検討することによって、小・中連携の可能性を示すとともに課題を明らかにすることを目的とした。

II. 研究内容

1. 衣生活に関する調査

附属小学校 6 年生の 111 名を対象として、平成 25 年 12 月に資料 1 に示した衣生活に関するアンケート調査を行った。その後、平成 26 年 10 月に再度、附属中学校 1 年生になった同生徒に対して、同様の内容でアンケート調査⁴⁾ を実施するとともに、附属中学校 2 年生 148 名に対しても平成 26 年 5 月に同じ内容で調査を行った。

* 宮崎大学教育文化学部附属中学校

** 宮崎大学教育文化学部附属小学校

*** 宮崎大学教育文化学部

**** 宮崎大学大学院教育学研究科

資料 1：アンケートの内容（例：小学校）

質問内容	
1 玉むすびができますか	できる・できない
2 玉どめができますか	できる・できない
3 なみぬいができますか	できる・だいたいできる・できない
4 返しぬいができますか	できる・だいたいできる・できない
5 ボタンつけができますか	できる・だいたいできる・できない
6 手洗いで洗たくができますか	できる・だいたいできる・できない
7 洗たく機で洗たくができますか	できる・だいたいできる・できない
○ せいふくの手入れで自分ですることがあったら、書いてください。	

2. 小・中の 5 年間を見通した年間計画の作成

学習指導要領に示された指導内容をふまえた上で、附属小・中学校での学習内容を学附共同研究において、小・中学校及び大学の教員が 5 年間を見通しながら相互に検討し年間計画を作成した。さらに、中学校の内容：C「衣生活・住生活と自立」（衣生活）の題材配列について、小学校の題材との関連を図りながら検討を行った。

3. 小・中の学習内容の系統性をふまえた被服授業の構成

小・中学生の衣生活に関する調査結果および C「衣生活・住生活と自立」（衣生活）の題材配列の検討をふまえて、中学校第 2 学年では、題材「布を用いた物の製作」において『マイ箸袋』を取り上げ、小学校からの系統性を考慮した授業を構成した。

Ⅲ. 研究の成果と課題

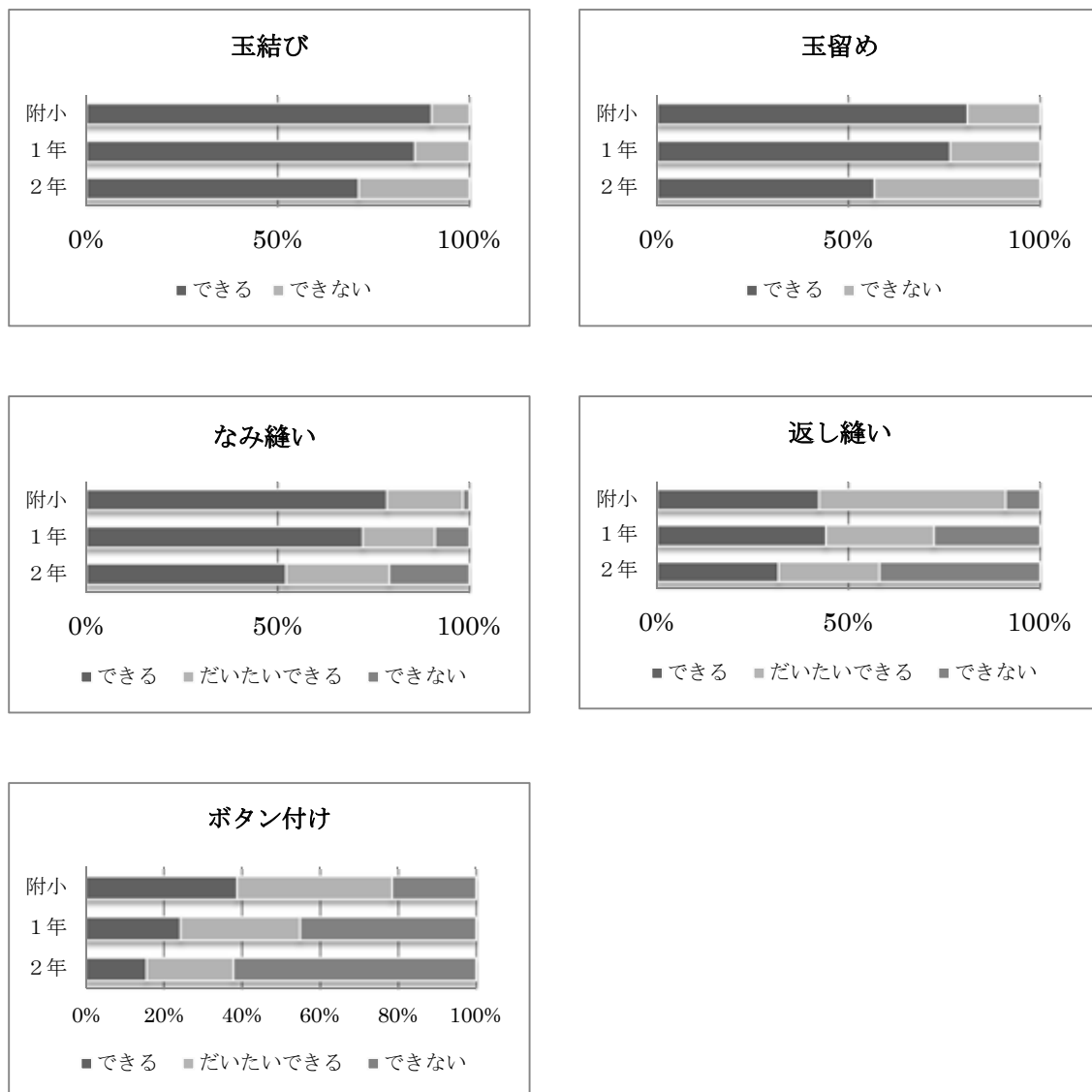
1. 衣生活に関する調査

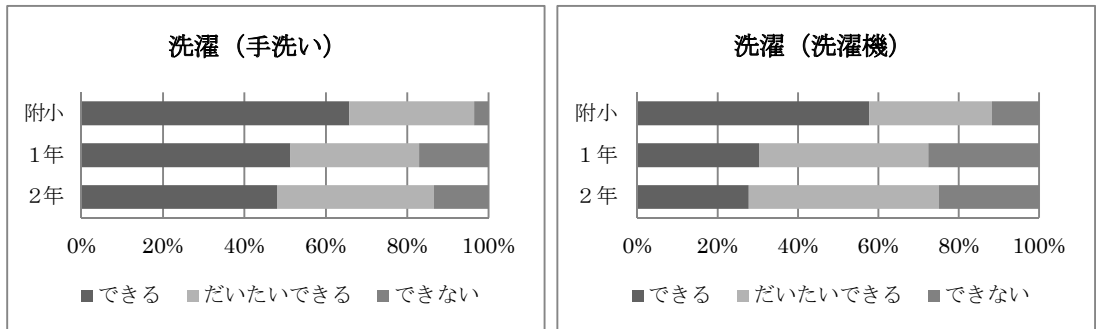
衣生活に関するアンケート調査の結果を図 1 に示す。製作技能に関しては、玉結び、玉留め、なみ縫い、ボタン付けにおいて、「できる」と回答していた小学 6 年生が、1 年後には「できない」とする傾向がみられた。他方、その中学 1 年生と、中学 2 年を比較しても中学 2 年の方が「できる」と回答する割合が低い。それらの技能に対して、しだいに自信を持ってなくなっていることが推察される。

また、制服の手入れにおいても、小・中学生ともに、ハンガーにかけたり、ほこりを取るなどの簡単な作業をしているものの、繕いやボタン付けなどを自分でしている者は多くなかった。日常的にそれらを行っていないことが背景にあって、縫う技能が定着していないことが考えられる。特に、ボタン付けは、そのような機会がないことや実際にボタンがとれても自分ではなく家族につけてもらっている現状が影響し、いずれの学年においても「できる」と回答する割合は低いのではなからうか。

これらのことから、基礎的・基本的な知識や技能を定着させるためには、繰り返し指導していくことや家庭での実践も含めて、実際の生活における実践力を養っていく必要性が示唆される。限られた授業時数の中で、それらの定着を図るために、小学校の基礎的・基本的な指導事項を確認するとともに、中学校の家庭分野の指導において資質や能力をどのように高めていくかということについても考え、計画的に指導を行っていくことが求められる。

図 1：衣生活に関するアンケート結果





○自分でしている制服の手入れ

中学校	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ◎ハンガーにかける。 ◎制服の汚れを「コロコロ」でとる。 ◎ほこりをとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機に入れる。 ・ボタンがとれたら自分でつける。 ・洗った物を干す。 ・えりや袖口を手洗いする。 ・汚れを自分で先に落とす。手洗いする。 ・体育着とブラウスは自分で洗濯する。 ・しみぬきをする。 ・ブラウスやシャツにアイロンをかける。 ・休日には、自分で洗濯する。 ・消臭スプレーをする。 ・破れたときには、たまに自分でぬう。 ・大事に着る。 ・何もしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ハンガーにかける。 ◎ほこりをとる。「コロコロ」でほこりをとる。 ◎洗濯機に入れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイロンかけ ・汚れをタオルなどでふく ・名札やバスカードを取ってから、洗濯機に入れる。 ・洗濯するときにポケットの中身を確認する。 ・自分のものは、自分で干す。 ・ボタンを付ける。 ・えりはずす。 ・クリーニングから戻ってきたときに袋から出す。 ・ネットに入れてから洗濯機に入れる。 ・ペットの毛をガムテープでとる。 ・たたむ。 ・洗剤の量を量って、洗濯する。

◎は、半数以上が記述していた内容

2. 小・中の5年間を見通した年間計画

平成 20 年 3 月に告示された小学校および中学校学習指導要領では、家庭科教育における小・中の系統性や連続性を重視し、表 1 の内容を示している。

表 1：小学校及び中学校の内容（学習指導要領・平成 20 年 3 月告示）

小学校	中学校
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立
(1) 衣服の着用と手入れ ア 衣服の働きと快適な着方の工夫 イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯 (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の製作 ア 形などの工夫と製作計画 イ 手縫いやミシン縫いによる製作・活用 ウ 用具の安全な取扱い	(1) 衣服の選択と手入れ ア 衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 イ 衣服の計画的な活用や選択 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ (2) 住居の機能と住まい方 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫 ア 布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫 イ 衣生活または住生活についての課題と実践（生活の課題と実践）

それら各学校段階での内容をふまえ、小学校・中学校での学習内容を学附共同研究において相互に把握し、5年間を見通しながら年間計画を作成した。資料 2 に附属小学校の年間計画を示す。

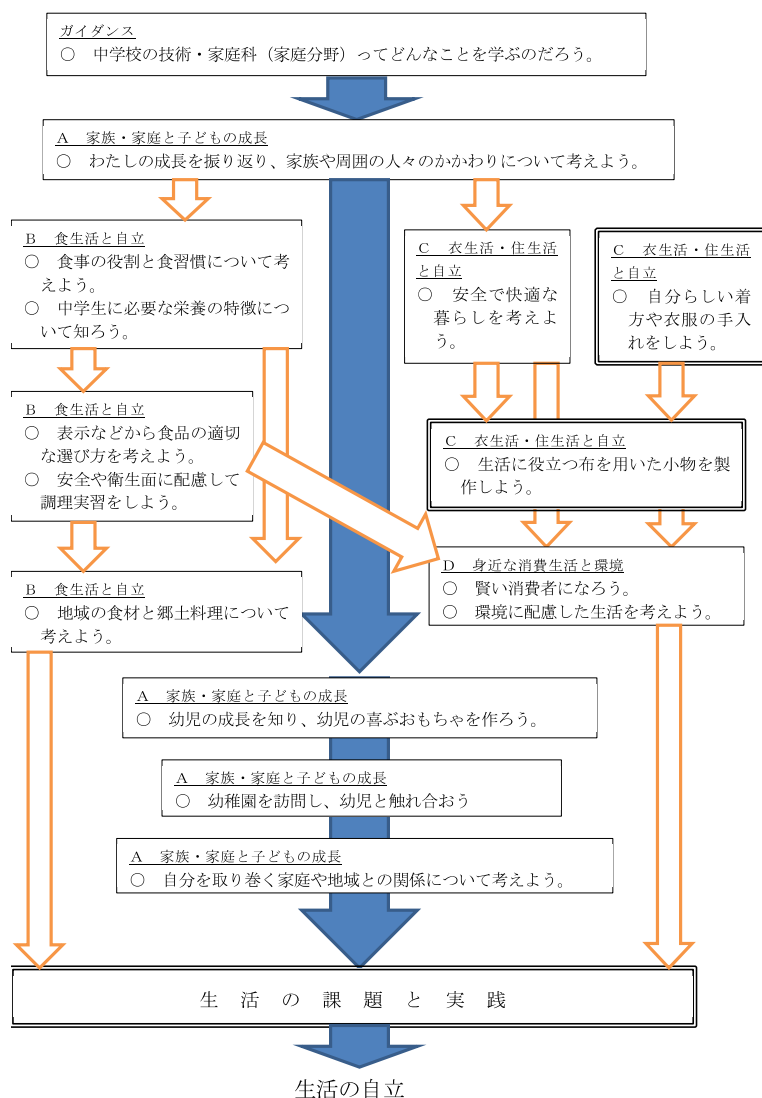
資料 2：附属小学校年間計画指導計画



一方、中学校においては、図 2 のように 3 年間の授業内容やそのつながりを表したイメージ図を作成した上で、資料 3 の年間指導計画を作成した。

日常生活の中で学習した基礎的・基本的な技術を活用する機会が少ないという生徒の実態から、3 年間のうち、一つの学年のみで実技が終わらないように、1・2・3 年のどこかの時期に調理実習と被服実習を行うように年間計画を作成し直している。そのように 3 年間にまんべんなく実習を入れることで確実に基礎的・基本的な知識や技術が定着するよう配慮した。

図 2 : 中学校 3 年間授業内容とつながり



資料 3 : 附属中学校年間指導計画

平成26年度入学生 技術・家庭科(家庭分野) 3年間を見通した年間指導計画・題材配列

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	題材	わたしの成長と家族	わたしたちと家族・家族の地域	健康と食生活											食品の選択と保存					調理の基本			日常着の活用		日常着の手入れ										
	学習内容	家庭分野ガイダンス 自分の成長と家族	家庭のはたらき 家庭生活を支える仕事	食事の役割と食習慣 栄養素の種類とはたらき 栄養素と身体の関係 中学生に必要な栄養の特徴 食品の栄養的特質 中学生の1日分の献立											生鮮食品の選び方 いろいろな加工食品 加工食品の表示 加工食品の選び方 保存のしかたを考える 食品の安全と情報					調理の計画 調理の基本 加工食品づくり (りんごジャム)			衣服のはたらき 目的に応じた着用・個性を生かす着用 衣服の活用と選び方		日常着の手入れ (衣服の洗濯・補修)		衣生活の課題と実践								
	時数	1	2	3	8											6					5			4		3		3							
	学習指導要領	A(1)ア	A(2)アイ	B(1)アイ(2)アイ											B(2)ウ					B(3)ア			C(1)アイ		C(1)ウ		C(3)イ								
第2学年	題材	快適に住まう					生活を豊かにする物をつくる					身近な消費生活					環境	基礎的な日常食の調理					幼児の発達												
	学習内容	住居の基本的な機能 安全に配慮した室内環境 快適な室内環境の整え方					生活を豊かにするための工夫 布を用いた物の製作					家庭生活と消費 商品の選択と購入 消費者の基本的な権利と責任					環境に配慮した生活	基礎的な日常食の調理 (肉の調理、魚の調理、野菜の調理)					幼児期って 幼児の体の発達 ・心の発達 子どもの成長と家族・地域												
	時数	7					7					7					3	7					4												
	学習指導要領	C(2)ア、イ					C(3)ア					D(1)アイ					D(2)ア	B(3)ア					A(3)ア												
第3学年	題材	幼児の生活と遊び	おもちゃの製作			幼児とのふれ合い			地域の食材と食文化																										
	学習内容	幼児の遊びと発達 幼児の遊びを支える	幼児と遊ぶおもちゃ作り			幼児とのふれ合い 体験 事前・事後指導			地域の食材 郷土料理 食文化																										
	時数	7	6			4			4																										
	学習指導要領	A(3)ア	A(3)イ			A(3)ウ			B(3)イ																										

3. 小・中の学習内容の系統生をふまえた被服授業の構成

以上の小・中学校のつながりを見通して作成した年間指導計画において、被服題材の配列について表2のように分析した。

その上で、特に、中学校第2学年の題材「布を用いた物の製作」では、前述した中学生の衣生活の実態をふまえて『マイ箸袋』を取り上げ、技術の定着を図った。その授業構成は、資料4の通りである。

表 2 : C 「衣生活・住生活と自立」(衣生活)における題材分析

◎重点的に扱う内容

題材名	自分らしく着る・快適に着る			生活を豊かにする物をつくる	生活の課題と実践
	日常着の活用	日常着の手入れ	環境に配慮した衣生活	布を用いた物の製作	
時数	2時間	4時間	1時間	6時間	6時間
指導内容	C (1) ア	◎			○
	イ	○	○	○	○
	ウ		◎	○	○
	C (2) ア				○
	イ				○
	C (3) ア				◎
イ					◎
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服のはたらき ・自分らしく目的に合わせた着方 ・衣服の活用と選び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れと手入れ ・手入れと表示 ・衣服の洗濯 ・衣服の補修とアイロンかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯と環境 ・衣服のリサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> ・布を用いた物の製作 ・生活を豊かにするための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活についての課題と実践
実習・実験の題材	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート ・T、P、O、 ・既制服の表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れの種類 ・ブラシかけ ・しみぬき ・洗濯機での洗濯 ・衣服の補修 ・アイロンかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯排水のCODバックテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックカバー ・箸袋 	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の手入れ
衣生活に関する基礎的知識・技能	衣服の社会生活上の機能	◎			○
	目的に応じた着用	◎			○
	個性を生かす着用	◎			○
	和服の基本的な着装	◎			○
	衣服の計画的な活用	◎			○
	衣服の適切な選択	◎			○
	サイズ表示	◎			○
	組成表が	◎			○
	取扱説明表示	◎			○
	衣服の入手	◎			○
	衣服のリフォーム	○		◎	○
	衣服のリサイクル	○		◎	○
	日常着の洗濯		◎	○	○
	衣服の状態に応じた適切な補修		◎		○
	まつり縫い		◎		○
	ミシン縫いによるほこみ直し		◎		○
	スナップ付け		◎		○
	洗剤の働き		◎	○	○
	洗剤の適切な選択		◎	○	○
	衣服の材料や汚れに応じた洗い方		◎	○	○
	電気洗濯機を用いた洗濯の方法		◎		○
	衣服の適切な収納方法		◎		○
布を用いた小物の製作				◎	○
製作計画(手順や方法)				◎	○
目的に応じた縫い方		○		◎	○
アイロンの取扱い		○		◎	○
生活の課題と実践					◎

③ 被服授業

衣生活への関心を高めるとともに、衣生活の自立に必要な知識・技術を習得させ、実際の生活における実践力を養うことができるように、中学 2 年生の題材：「布を使った小物の製作」として『マイ箸袋』の製作を行った。

“箸袋”は、製作後に自分で使ったり、家族へプレゼントしたりできる“自分たちに身近な物”である。生徒たちにはものづくりの楽しさや完成の喜びを味わってほしいと考え、全員が完成できるように、資料 5 に示した実物見本や実物投影機などを用いながら、個に応じた指導を行った。また、アンケートで明らかになった生徒の実態をふまえて技能の定着を図るため、資料 6 のよう進捗表と自己評価票を作成し、小学校での既習の知識や技能についても振り返り、再確認しながら生徒自らが毎時間の作業内容や進捗を確認できるようにするとともに、見通しが持てるように工夫した。その記入例を資料 7 に示す。

資料 4：学習指導案

1 題材名：『マイ箸袋』（「布を用いた物の製作」）

2 目標：

- 自分や家族の生活に関心をもち、布を用いた小物の製作に取り組み、衣生活や住生活を豊かにしようとする態度を育てる。
- 布を用いた小物の製作計画を考え、自分や家族の生活を豊かにするための工夫をすることができる。
- 安全に能率よく、布を用いた小物の製作ができる。
- 布を用いた小物の製作に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。

3 題材計画（全 7 時間）

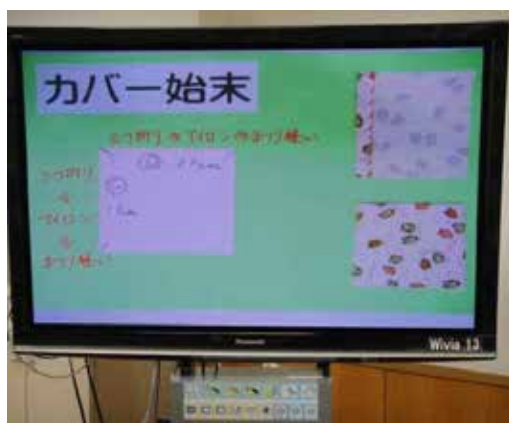
時数	学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や家族の生活を振り返り、毎日の生活に役立つ小物について考える。 ○箸袋の製作計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○完成後に自分や家族がお弁当の時に使用するなど、作る目的をもたせて製作への意欲を高める。 ○誰が・いつ・どのように使うかなど実際の生活場面を具体的に考えさせ、使う人のことを考えたデザインを生徒に工夫させる。 ○製作に必要な材料、用具、製作手順、時間などの完成までの見通しをもって、製作計画を立てさせる。
6 2 5	<ul style="list-style-type: none"> ○製作を行う。 ・印付け、裁断 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での学習も活用させながら、衣生活に関する基礎的・基本的な知識と技術が身に

	<ul style="list-style-type: none"> ・おはし入れ始末、カバー端始末 (まつり縫い) 	<p>付けられるように製作を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に能率よく、製作が進められるよう机間指導を行う。 ○ 毎時間、授業の始めに本時の作業内容の確認を行い、生徒に見通しをもたせる。 ○ 机間指導しながら個別指導を行ったり、グループ内での教え合い活動を行ったりして個に応じた指導を行う。 ○ 実物見本や段階標本を提示したり、実物投影機で手元を映しての示範を行ったりして、全員が確認できるようにする。 ○ 進度表と自己評価票を活用して、生徒が作業に見通しが持てるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・仮止め (しつけ) ・おはし入れ部分 (なみ縫い、返し縫い) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本体縫い合わせ (なみ縫い、返し縫い) ・アイロン ・仕上げ閉じ (なみ縫い) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・スナップ、ボタン付け 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価・相互評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の取組や技能について、自己評価をさせる。 ○ 自分の工夫した点や製作を終えての感想を発表させる。 ○ それぞれの作品のよさを伝え合うことで、製作の達成感や成就感を味わわせる。 ○ 自分で物を作ることにより、自分や家族の生活を豊かにすることができることを意識させ、次の実践へとつながるよう助言する。

資料 5 : 『マイ箸袋』の見本と実物投影機を用いた説明



【実物見本】



【実物投影機による説明】

資料 6：進捗表と自己評価票

マイ箸袋 製作評価票

作業内容	進捗状況	作業日・進捗	自己評価	
しるしつけ			A	
裁断			A	
アイロンかけ			A	
お箸入れ結束 カバー縫合	まわり縫い	10/16	10/24	B
仮止め	なみ縫い	10/16	10/24	A
お箸入れ部分	なみ縫い 返し縫い	10/16	10/24	A
本体縫い合わせ	なみ縫い 返し縫い	10/16	10/24	A
仕上げ開じ	なみ縫い	10/16	10/24	A
スナップ付け	スナップ付け	10/16	10/24	D
ボタン付け	ボタン付け	10/16	10/24	A

作業開始日を記入

作業終了日を記入

A、B、Cで自己評価

自分の取り組みに対する反省、良くできた点、難しかった点等を記入

作品完成後に自己評価

総合評価	A	B	C	総合評価
①意欲的に製作に取り組むことができたか。	A	B	C	
②自分なりの工夫をすることができたか。	A	B	C	
③安全に留意して、正しく縫うことができたか。	A	B	C	A
④場所に応じた正しい縫い方が理解できましたか。	A	B	C	

⑤ 工夫したところ・よくできたところ

アピールポイント（工夫等）1つ以上記入

製作を終えての感想

この製作を通して新しくできるようになったことやこれからの実践意欲等について記

資料 7：生徒の記入例

マイ箸袋 製作評価票

作業内容	縫い方	作業日・進捗	自己評価	
しるしつけ			A	
裁断			A	
アイロンかけ			A	
お箸入れ結束 カバー縫合	まわり縫い	10/16	10/24	B
仮止め	なみ縫い	10/16	10/24	A
お箸入れ部分	なみ縫い 返し縫い	10/16	10/24	A
本体縫い合わせ	なみ縫い 返し縫い	10/16	10/24	A
仕上げ開じ	なみ縫い	10/16	10/24	A
スナップ付け	スナップ付け	10/16	10/24	D
ボタン付け	ボタン付け	10/16	10/24	A

◎総合評価

①意欲的に製作に取り組むことができたか。	◎	○	△	×	総合評価
②自分なりの工夫をすることができたか。	A	◎	○	△	
③安全に留意して、正しく縫うことができたか。	A	◎	○	△	A
④場所に応じた正しい縫い方が理解できましたか。	◎	○	△	×	

◎ 工夫したところ・よくできたところ

本縫いの糸の色の組み合わせがよいと思った。糸をかける時に注意を怠らなかつた。

◎ 製作を終えての感想

お箸入れ部分の縫い方など、今まで学習してきた縫製で少し違い、花の出る縫いで縫いました。スナップ付けが特に難しく、たすです。また柄が作ることができました。

資料 8：授業の様子

【机間指導しながら個別指導】

【教え合い活動】

【見本を観察しながら実習】



資料 8 に示したように、製作が進んでくると、生徒の作業進度に差が出てくるので、生徒は、わからないところを教師に確認したり、グループ内で作業が早く進んでいる生徒に教えてもらったりしながら進めていた。前報³⁾において、小・中学生の合同調理では相互の教え合いによる効果が確かめられたが、被服製作においても、教え合いの場を設定したことで、教えてもらう生徒の技能が高まると共に、教える方も知識及び技能を再確認できるという利点が期待された。

また、段階標本や実物見本の提示、示範などによって、資料 7 に例示した生徒の「製作を終えての感想」に既習事項の振り返りが見られるように、生徒は以前の学習内容を振り返りながら、具体的な操作を通して理解を深めつつ作業を進めることができていた。

さらに、『マイ箸袋』完成後、手元に箸がなかったため、定規やペンなど近くにある物を入れて嬉しそうにしている姿や、普段は教室で物を失くしても無頓着な生徒たちが、『マイ箸袋』が見つからなくなって、一生懸命探している姿が見られた。苦勞して作ったその分だけ作品への愛着が湧いたのであろう。技能が身に付けば、やる気も出てきて、達成感や成就感を味わえ、逆にやる気が出てくれば、技能も高まってくる。技能とともに意欲が高められるよう働きかけ、家庭での実践も促すことによって定着を図りたい。

資料 9：出来上がった『マイ箸袋』



Ⅲ. 研究の成果と課題

附属小学校と附属中学校の教員および大学の教員が、相互に小・中学校で学習する基礎・基本的な知識や技術の内容を確認し、児童・生徒の衣生活の実態を把握した上で、系統性や連続性を意識した年間計画を作成することができた。

中学校においては、基礎的・基本的な知識と技術の定着が図られるよう、3年間にわたって調理と被服に関する実習を配列した年間指導計画を見直す機会となった。また、作品製作において、既習事項を振り返りつつ、個に応じた指導を行うことによって、技能が確実に身に付き、自信につながり意欲的に取り組もうとする生徒が見ることができた。

他方、限られた授業時数の中で確実に技能を定着させるためには、小学校での学習指導事項の把握をより詳細にした上で、小・中学校の体系化をさらに進める必要がある。小学校での基礎・基本を生かせる製作に加え、中学生ならではの難度を少し上げた製作も考えられるであろう。また、手縫い・ミシン縫いなどの基礎・基本については、学習したときだけでなく定期的に活用できる場を設けるとともに、個に応じた指導を進めるために、児童・生徒がよりわかりやすい教材・教具の工夫や指導方法等の研究を進めていく必要がある。今後も小・中学校および大学が連携して、検討を行っていききたい。

引用・参考文献

- 1) 中教審初等中等教育分科会. 小中連携, 一貫教育に関する主な意見等の整理. 2012.
- 2) 河原国男、中山迅他、編著. 小中一貫・連携教育の実践的研究. 東洋館出版社. 2014
- 3) 福良維素子、川崎夕子、平川祐子、岩見ミカ、篠原久枝、伊波富久美. 家庭科教育における小・中連携の授業実践-合同授業による調理実習の検討-. 宮崎大学教育文化学部紀要教育科学第 29 号, pp. 1-10. 2013
- 4) 福良維素子. 平成 25 年度宮崎大学教育文化学部附属中学校研究紀要, pp. 71-78. 2014.